



都市におけるDX

国際社会経済研究所 (NECグループ) 主幹研究員

飾森 正



新たな課題

2050年には、新化などに伴う新たな課題も顕在化しつつあり、世界人口の70%が都市に集中すると予想されている。現時点を30年までに包括的に解決することとし、

2050年には、新化などに伴う新たな課題も顕在化しつつあり、世界人口の70%が都市に集中すると予想されている。現時点を30年までに包括的に解決することとし、

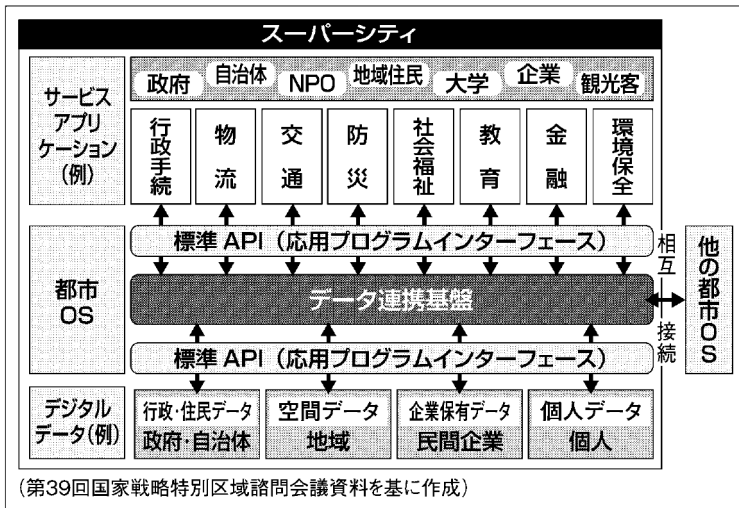
よって解決する取り組みを進めており、DXによる持続的な都市経営を構築する先進的な取り組みが注目されている。

一瞬で活用

DXとは、企業活動において、デジタル技術によって業務、組織、文化までを革新し、新事業を生み出すデジタル変革の取り組みを指す。人工知能(AI)、IoT(モノのインターネット)、クラウド、モバイル、

ブロックチェーン(分散型台帳)など革新的技術が継続して変化の中で、新たな顧客体験や顧客価値を圧倒的なスピードのサービスを提供して創出する、

DXを先行していくためには、顧客やエンタープライズから企業の各部門までを一本で連携することにより、AIなど新技術の導入、データの活用を一瞬で実現するデジタルプラットフォーム(基盤)の構築が極めて重要に



(第39回国家戦略特別区域諮問会議資料を基に作成)

デジタル基盤の整備重要

提供するデジタル基盤には、デジタルインフラとして、都市OS(都市の基本ソフト)が包含されるエコシステムから構築されること、より高度な付加価値を生み出す。この政府の国家戦略特区は19年4月に、都市は、組織や企業の壁を越えた協業、高いユーザー目線を持つ顧客自身や素早いアプリケーション(応用ソフト)を開発するスタートアップ企業なども含めて構成される。

都市にも適用

DXは企業だけでなく、都市にも適用できる。都市のDXとは、都市がデータとデジタル技術によって都市経営を変革し、市民、来訪者、企業、社会一